

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和元年度第1回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 令和元年5月30日（木） 14：00～15：30

会 場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

令和元年度第1回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

令和元年度第1回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時・会場

開催日時 令和元年5月30日(木) 14:00~15:30

会場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

3 出席委員(五十音順)

今泉 恵子、田籠 亮博、中尾 美佐、松田 亨、森江 由美子

4 議事

(1) 平成30年度第4四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(2) 平成30年度第4四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、平成30年度第3四半期に契約をした工事の中から、田籠委員が10件(契約課契約分8件、東部整備事務所契約分2件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 総合評価、一般競争入札による建築工事だが、結果は1者入札となっており、落札率も99.75%と非常に高くなっていることから、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 開札当日は建築工事の入札が4件あり、当該案件が8千万円程度であったのに対し、他の3件は1億円以上の案件であった。よって、金額の大きな案件に業者が意欲を示したと思われ、当案件では辞退者が多かったこと、また当日別の案件を落札して資格取消になった業者もあり、1者のみの応札となった。落札した業者も、当案件においては予定価格近くで応札してきていたため、落札率が高くなった。

(問) 他の3件の落札率はどの位であったか。

(答) 91%台であり、応札意欲が働いたと思われる結果だった。

(問) 一般競争入札による土木工事で、落札率が96.21%と高いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 工事内容は川の護岸工事だが、昨年度までの同種工事の落札状況を見ると、落札率は90%前後になっており、競争性は保たれていたと思われる。よって、特に難易度が高い工事ではないが、今回は金額が比較的少

額であったこと、年度末近くでの入札であったため手持ち工事を抱えた業者が多かったことで、1者だけの応札となり、競争性が働かず落札率が高くなったものとする。

(問) 一般競争入札による建築工事で、落札率が97.88%と高く、参加業者も少ないため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 工事場所である市民センターは、複合施設の2階部分にあり、1階部分には金融機関も入っている。そのため工事の際には他の施設のお客様への配慮が必要であること、年度末の入札であったため手持ち工事を抱えている等の理由で参加業者が少なく、落札率が高くなったのではないかと考えている。

(問) 一般競争入札による電気通信工事で予定価格が1億円超えの案件ながら1者入札となっており、落札率も98.24%と高いため、特殊性があったかなど、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 公認の大会が行えるプールの電光掲示板を作る工事だが、スタート台からタッチするパネルまでのデータを処理して、電子掲示板に即時反映させるシステムを作れるのは、1者しかなかった。よって、メーカーである業者の1者入札となり、落札率も高くなった。

(問) 指名競争入札による土木工事で、指名が62者と多い割には落札率が97.87%と高くなっているため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 7月の豪雨災害の復旧工事であり、当初は門司区、小倉北区、小倉南区の業者39者を指名したが、1者だけの応札となったため入札が成立しなかった。現場が小倉南区の南部ということで、再度入札には八幡東区を含めた62者を指名したが、災害復旧工事は業者に敬遠されがちであり、人手も不足している中、4者の応札に留まったと思われる。入札の結果は1者が最低制限価格を下回り失格となり、次点者が落札することになった。落札率が高くなったのは、ランダム係数の影響もあったと考える。

(問) 災害復旧工事が敬遠されるのはなぜか。

(答) 災害復旧は国庫補助事業になることが多いが、目的が現状に戻すことであるため最低限の復旧工事となり、金額も大きくないことから業者にとっては利益が出にくい工事といえる。

(問) 指名競争入札によると土木工事で、予定価格が8千万円超えと比較的高額ながら指名競争入札とした理由等詳しい入札状況を知りたい。

(答) 当該工事では、コンクリートの中に鋼材を入れ強度を高めたPC（プレストレストコンクリート）というものを使用することになっていた。このPCに対応できる業者は限定されており、市では名簿登録の際に申請してもらっているため、対応可能な業者を把握している。よって、指名競争入札にすることにより、PCの施工ができない業者が入札に加わることを防ぎ、施工可能な業者に参加を促すことができるように、一般競争入札ではなく指名競争入札とした。

(問) 指名競争入札による電気工事2件で、同じ照明灯設置工事で指名業者も同数であるにもかかわらず落札率に開きがあるため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 一方は最低制限価格を設定しており、他方は設定していなかった。これは、直接工事費における工場製作物の割合で決まってくるが、LED照明を取り付ける工事の方は、工場製作物の割合が大きく、最低制限価格を設定しなかったため、企業努力が働き、落札率が低くなったと思われる。

(問) 随意契約による舗装工事で、道路改築工事で随意契約というのは珍しく、業者も大手ゼネコンであるため詳しい入札状況を知りたい。

(答) 工事場所は小倉駅南口東側で、小倉駅南口東地区市街地再開発組合が竹中工務店に発注して再開発している地区に隣接した再開発区域外の道路である。竹中工務店とその協力会社約400社が出入りしており、工程調整は竹中工務店以外の業者では難しいこと、交通量が多い場所で交通規制をかけることになるが、同じ業者で施工することで期間の短縮を図ることができ、周辺への影響を最小限に抑えられるなどの理由で、竹中工務店と随意契約を行うこととした。

(問) 指名競争入札による土木工事で、指名業者が82者と多い割には落札率が97.02%と高くなっているため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 12月に一度入札を行ったが、1者入札になったため、再度入札となった案件である。当初は小倉南区西部地区のBCランク28者を指名していたが、再度入札の際には小倉南区、門司区、小倉北区のBCランクまで範囲を広げ82者を指名した。結果、2者が応札したが、そのうち1者が最低制限価格を下回り失格となり、比較的高い金額で入札した業者が落札したため、落札率が高くなった。

(問) 応札者が少なかったのはなぜか。

(答) 豪雨災害により各地で土木工事が行われており、業者は人手不足の状態にある。よって、辞退者が多くなったと思われる。

(問) 指名競争入札による土木工事で、指名業者が96者と多い割には落札率が98.76%と高くなっているため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 河川災害復旧工事であり、早期の工事着工が必要であったため、最初から工事場所である小倉南区に加え、門司区と小倉北区のCDランク47者を指名したが、辞退者等が続出し、応札する者がいなかった。そこでBランクまで範囲を広げ96者を指名し、再度入札を行った結果、1者が応札してきたため、地方自治法に基づき随意契約を行った。災害復旧工事の中でも特に河川は現場の状況が見えづらいことから敬遠されがちな工事であり、落札率が高くなったと考えている。

※ 次回の委員会は、令和元年8月29日(木)に開催することとなった。